山城小だより

Ｈ２８．１０．３１（月）
学力向上対策推進委員会

☆学校教育目標
「やさしく　かしこく　たくましく」
○　自ら学び深く考える子ども
○　心美しい思いやりのある子ども
○　明るく健康でたくましい子ども

本年度の全国学力・学習状況調査は、4 月 19 日（火）に全国の小中学校で実施されました。

本校でも当日は、6 年生が参加しました。調査内容は、①教科に関する問題（国語・算数）、②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ、各教科も A（主として「知識」に関する問題）、B（主として「活用」に関する問題）に分かれています。

この調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善などに役立てることを目的にしています。

すでに、調査に参加しました 6 年生には個票にて結果をお知らせしたところですが、先日文部科学省から調査の報告書と調査結果を踏まえた授業アイディア例が届きましたので、資料を参考にしながら、児童の学習状況の改善につながっていきますよう努めてまいりたいと思っております。

さらに、次のように本校の調査結果の概要をまとめましたので、保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思います。

全国学力・学習状況調査の結果につきましては、全国平均正答率の±５％の範囲にある場合は、全国平均とほぼ同等であると考えています。

〔参考〕教科別平均正答率（全国・山梨）

	国語 A 正答率	国語 B 正答率	算数 A 正答率	算数 B 正答率
全国平均	72.9	57.8	77.6	47.2
県　平均	71.3	58.2	77.2	46.6

◇ 本校の調査結果

以下、教科の中に示す「上回っている」「下回っている」の表現は、ほぼ同等であると考える「±５％の範囲」内における差異を示します。また、全国平均および県平均を下回った事柄を「課題」ととらえます。

【国語Ａ】

（１）結果の概要

- 平均正答率について、県平均は上回っているが、全国平均を下回っている。
- 領域別（評価の観点）の傾向について、「話すこと・聞くこと（話す・聞く能力）」「書くこと（書く能力）」「読むこと（読む能力）」の３領域では、正答率の全国平均および県平均を上回っている。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（言語についての知識・理解・技能）」領域では、全国平均および県平均を下回っている。
- 問題形式別の傾向について、「選択式問題」は全国平均および県平均を上回り、「短答式問題」は全国平均および県平均を下回っている。

（２）課題の見られた基礎的な知識・技能に関する事柄

①　学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり、書いたりすること

②　書写の学習において、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めること

③　ローマ字で書くこと

（３）主な改善点

①　学習した漢字を繰り返し練習して正しく読んだり書いたりし、それらを各教科や日常生活で使用する文や文章の中で適切に使うことができるようにすることが必要である。そのために、既習の漢字を意図的に復習したり、様々な場面で実際に使用したりすることで確実に習得できるように計画的な学習が必要である。その際、漢字の持つ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義語の漢字に注意し

て使ったりできるように指導することも大切である。

また、漢字を習得し語彙を広げるために、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣をつけることが求められる。そのために、必要なときにはいつでも辞書が手元にあり、使えるような言語環境を整えることが必要である。

② 書写の学習で、学年の段階に応じて、姿勢や筆記具の持ち方、字形、筆使い、筆順、配列等について指導することが大切である。また、自分の書いた文字を見直す際に、どのような点に気を付けて書き直すと良いかを考えて書く力を育てることが必要である。

③ ローマ字の規則性に気付かせることが必要である。清音だけでなく、濁音、半濁音、長音、拗音、促音、撥音などについても、音声と関係づけながら、規則性があることに気付き、身に付けることができるように指導を工夫することが大切である。さらに、ローマ字は、第３学年の指導事項となっているが、当該学年での学習にとどまらず、他教科等でのコンピューターを使った学習と関連付けるなどして、繰り返し読んだり書いたりする機会を増やす必要がある。

【国語Ｂ】

（１）結果の概要

- 平均正答率について、全国平均および県平均を上回っている。
- 領域別（評価の観点）の傾向について、「話すこと・聞くこと（話す・聞く能力）」「書くこと（書く能力）」「読むこと（読む能力）」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（言語についての知識・理解・技能）」の４領域において、全国平均および県平均を上回っている。
- 問題形式別の傾向について、「選択式問題」「記述式問題」ともに全国平均および県平均を上回っている。

（２）課題の見られた活用に関する事柄

引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと

（３）主な改善点

図表やグラフから分かったことを書くためには、図表やグラフなどを読み、分かったことを明確に書くには、情報を正しく読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて記述することが重要である。そのためには、社会科や算数科等で学習した図表やグラフの読み方を確認し、読み取ったことを的確に表現する力を育てることが大切である。

具体的には、1つのグラフを取り上げて全体的な特徴や変化の特徴を捉える力、複数の図表やグラフを比較したり関係づけたりする力を育てることが必要である。また、読み取った情報を相手にわかりやすく伝えるための言葉を選択することも重要である。例えば、必要な数値（60%以下、12 人以上）を使って説明する場合、概略を示す言葉（おおよそ、大体が）を使って説明する場合、比較を示す言葉（上回る、下回る）を使って説明する場合等がある。これらの表現の内容の違いや効果を比べ、目的に応じて使い分けすることができるように指導を工夫することが必要である。

目的や意図に応じ図表やグラフを用いて自分の考えを書くためには、図表やグラフなどから目的に応じて必要な情報を取り出し、比較したり関係づけたりしながら自分の考えを明確にすることが重要である。

具体的には、観察したり、実験したり、調査等を行ったりして得られた効果などの事実を図表やグラフで示し、自分がどのように読み取って分析したのか、そこからどのような考えを持ったのかを具体的に記述する力を育てることが重要である。その際、図表やグラフの何に着目するのか、図表の中にあるどの数値や言葉を使って書くことが効果的であるのかを検討する必要がある。また、用いた図表やグラフとその分析内容が、自分の考えを明確に伝えるための根拠となっているのかを確かめる態度を育てることも重要である。

【算数Ａ】

（１）結果の概要

・　平均正答率について、全国平均および県平均を上回っている。

・　領域別の傾向について、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の 4 領域において、全校平均および県平均を上回っている。

・　評価の観点の傾向について、「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」の 2 観点で、全国平均および県平均を上回っている。

・　問題形式別の傾向について、「選択式問題」「短答式問題」ともに全国平均および県平均を上回っている。

（２）課題の見られた基礎的な知識・技能に関する事柄

１を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解すること

（３）主な改善点

文章題の意味を正しく読み取るとともに、文章に使用されている数字や情報から、答えの見通しを持つ力を育てる。また、提示されている図を正しく読み取って答えを導き出せるよう、文章を読み、図で表す活動を多く取り入れるなど指導を工夫する。

【算数Ｂ】

（１）結果の概要

・　平均正答率について、全国平均および県平均を上回っている。

・　領域別の傾向について、「数と計算」領域は、全国平均および県平均を上回っている。「量と測定」領域は、全国平均を上回り、県平均を下回っている。「図形」領域は、全国平均および県平均を下回っている。「数量関係」領域は、全国平均を下回り、県平均を上回っている。

・　評価の観点の傾向について、「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」の３観点で、全国平均および県平均を上回っている。

・　問題形式別の傾向について、「選択式問題」では、全国平均および県平均を下回っている。「短答式問題」「記述式問題」では、全国平均および県平均を上回っている。

（２）課題の見られた活用に関する事柄

・　この項は、「全国平均および県平均」を下回る事柄はありませんでしたが、あえて課題として挙げるとすれば、図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断すること

（３）主な改善点

・　算数の問題場面で見出したことを、図形の構成要素に着目して論理的に考察する力を育てるために、高学年においても算数的な活動を重視し、「図形を構成させる活動」を通して、図形の特徴や角についての知識などを基に考える場を設ける。

＜補足＞

示された形を作ることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く問題において、示された除法の式を、並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することが求められる。そこで、授業においては、図や式などを用いて問題を解決し、互いに図や式の意味を解釈し説明しあう活動を設けるなどの工夫が必要である。

また、観察や構成するなどの活動を通して、図形の意味を理解したり、図形の性質を見つけたり、図形の性質を確かめたりする算数的活動を取り入れた授業展開を工夫することが必要である。

質問紙調査から

本校指導重点に示した項目の中から、質問紙調査に当てはまる事柄を取り上げ、児童の様子とこれまでの実践を踏まえて考察します。

【道徳性・思いやる心】

○ 質問紙調査の結果からの考察

・ 「学校の決まりをよく守る」「困っている人を見ると助ける」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童の割合が高く、規範意識や道徳的実践意欲につながっている。

○ 児童の様子とこれまでの実践

・ 避難訓練の後、砂だらけになった階段や廊下を自　主的に掃除したり、給食などの当番活動の代理に率先して立候補したりするなど、「チョボラ」を合い言葉に友だちや下級生に進んで手を貸す場面が多い。

・ 4 年生のころから、学年の取組として、一人一役を実践している。仕事内容は学級ごとに異なる場合もあるが、「学級のためにしなければならない仕事」として、担当者の存在価値が学級に浸透するように責任者を明確にした。また、「みんなのために」活動すれば学級はより楽しくなる係活動も実践してきた。

○ これからの取組

・ 係や当番活動を利用し、自分の思いや願いを友だちと共有しながら協働する場を作り、ルールを守る規範意識のある教室環境を整え、互いに認め合い高め合う集団意識を醸成する。

【家庭学習】

○ 質問紙調査の結果から

・ 学校の授業以外に、普段（月～金曜日）１日当たりの学習時間（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）について、「1 時間以上 2 時間未満」「2 時間以上 3 時間未満」の割合が、全国および県を上回っている。「3 時間以上」の割は下回っている。

・ 家で、教科書を使って、学校の授業の予習や復習をしている児童の割合が、全国および県を大幅に上回っている。

○ これからの取組

・ 引き続き、学校全体で、低学年のうちから家庭学習を定着させる取組を続けることは必要である。

・ 家庭での学習方法について児童と話し合ったり、家庭への協力をお願いしたりして、宿題をする習慣づくりを推し進める。

【読書活動】

○ 質問紙調査の結果からの考察

・ 学校や地域の図書館を利用して、本に触れる児童は多いが、「読書は好きですか」との質問に、「当てはまる（好き）」と答えた児童の割合は少なく、「当てはまらない（好きではない）」と答えた児童の割合は高い。好んで読書をしているのではない児童がいることが考えられる。

○ これからの取組

・ 引き続き、保護者や地域の方々による読み聞かせボランティアや教師による読み聞かせを行ったり、「おすすめの本」の紹介や新しく購入した本を紹介したりして、様々な本に触れる機会を設ける。

・ 朝読書の時間に、静かに落ち着いた環境づくりを充実させ、じっくりと本に親しませる。

・ 季節や行事、学習内容に関連した本を展示したり、手作りポップとともに展示したりするなどして、読書意欲を高める工夫する。

・ 図書館や山城文庫（山城ルームの読書スペース）を含めた読書環境の充実を図る取組の工夫を推進する。